

タイトルラベル

線に沿って切り抜いて使用します。フロントジャケット用なので上質紙に印刷すると良いでしょう。

鹿音院Ⅱ

首都圏の釣掛電車 1986 ②

収録区間	車両	収録時間
小田急電鉄 小田原線 新宿～東北沢	デハ4112	9:25
東京急行電鉄 世田谷線 五反田～三軒茶屋	デハ78	10:17
西武鉄道 多摩川線 新小金井～競艇場前	モハ571系	8:08
京王帝都電鉄 京王線 八王子～高幡不動	デハ5112	13:23
京浜急行電鉄 羽田空港線 京浜蒲田～羽田空港	デハ507	6:46

© 2003 大馬山 鹿音院

鹿音院Ⅱ



鹿音院レコード

折込コンテンツ

ケース折込用の解説。普通紙で十分です。

1. 小田急電鉄 小田原線 新宿 - 東北沢間

新宿駅地下ホームから出発する 4000 形の各駅停車である。スマートな外観に似合わず床下からは重厚な音が沸きあがってくる。同車の特徴はエアサス付きのバイオニア台車である。従来の車両と比較してレールの継ぎ目を静かに渡っていたはずであるが、この収録では速度が出ていないので比べようもない。収録車両は 1988 年に冷房化とカルダン化が施された。この際、車番はデハ 4008 に改められて活躍を続けたが、2004 年に廃車解体となっている。

2. 東京急行電鉄 世田谷線 山下 - 三軒茶屋間

収録したのは 1946 年製のデハ 78 である。収録時の車齢はすでに 40 年。ニス塗り内装の旧型車は当時であっても首都圏の異空間であった。

路線は東京に二つ残った軌道線のひとつである。車掌からの発車合図や料金箱へ小銭を投入する音にそれらしい風情を感じることが出来るだろう。また若林踏切で環七を横切る際、信号待ちをしているのも軌道らしさの片鱗ではある。この車両は 1994 年にカルダン化されたが、2000 年 12 月に廃車された。車体は一時的に保存されたが、惜しくも解体済みである。

3. 西武鉄道 多摩川線 新小金井 - 競艇場前間

首都圏郊外にある地味な私鉄盲腸線である。当時からロングレール化が進み音風景も間延びした感もあるが、1988 年の高性能車の投入、1996 年のワンマン化、2001 年の駅名変更(多磨墓地前→多磨、北多磨→白系台)

など、環境は変わっている。収録は 1986 年秋頃のものである。閑散としているが、帰路は競艇を楽しんだ客で混雑したように記憶している。

4. 京王帝都電鉄 京王線 京王八王子 - 高幡不動間

新宿向きの先頭二両が釣掛駆動、残りがカルダン駆動の 5000 系という編成の各駅停車である。発車を待つ窓の外から 3 年後の地下化を目指して基礎工事が進んでいる様子が判る。出発後は快調にスピードを上げ、同時にモーターからの唸りもヒステリックに響いている。どうやら八王子 - 北野駅で最も速度が出ているようである。

定尺レールを刻む音、釣掛モーター、非冷房の開け放たれた窓といった組み合わせはもう聞くことが難しいかもしれない。収録した デハ 5112 は 1989 年に伊予鉄道へ譲渡され、足廻りを一新した上 718 号として活躍している。

5. 京浜急行電鉄 羽田空港線 京急蒲田 - 羽田空港間

今日では大幹線となった羽田空港線であるが、当時は蒲田と空港の外れを結ぶローカル線であった。

盛夏の蒲田駅を扇風機を廻しながら 500 系が行く。この路線は多くの主要道路と交差するが、当時は全て平面交差であった。右手に環八、左手に民家の裏庭を見ながらの短い乗車区間である。音声にも踏み切りの警報音が過ぎていく様子が聞いて取れる。終点の「羽田空港」は現在の「天空橋」の手前で終わってしまう。羽田空港に用事がある乗客が騙されたと気付いても、もう遅い。

ボトムラベル

標準Pケースを使用する場合のバックインレイ用です。内折でも外折でも好きなように使ってください。

鹿音院レコード

鹿音院レコード

鹿音院 II

首都圏の釣掛電車 1986 ②

収録区間	車両	収録時間
小田急電鉄 小田原線 新宿～東北沢	デハ412	9:25
東京急行電鉄 世田谷線 五反田～三軒茶屋	デハ78	10:17
西武鉄道 多摩川線 新小金井～競艇場前	モハ571系	8:08
京王帝都電鉄 京王線 八王子～高幡不動	デハ512	13:23
京浜急行電鉄 羽田空港線 京浜蒲田～羽田空港	デハ507	6:46

鹿音院レコード